

みせん

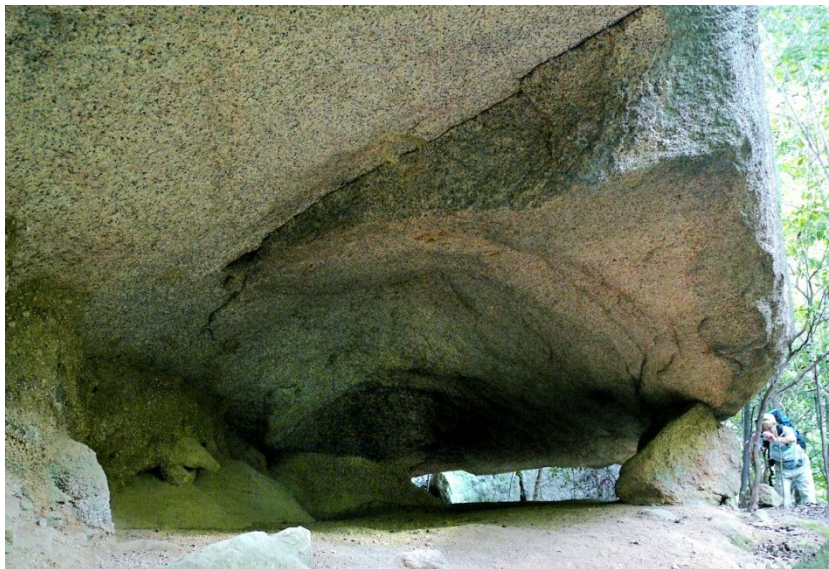
瀬戸内海国立公園
宮島地区パーク
ボランティアの会

第42号

発行日
平成22年 12月1日

目次

- | | | | |
|-----|----------------|-----|----------------|
| P 2 | COP10(名古屋)見聞録 | P 7 | ハチクマの渡り・エコツアー |
| P 3 | 八幡湿原自然再生シンポジウム | | 紅葉谷公園の清掃 |
| P 4 | 観音山自然と歴史トレッキング | P 8 | 酷暑後の入浜池 |
| P 5 | 宮島二流記(その7) | P 9 | ミヤジマトンボ生息地保全作業 |
| P 6 | 大江貝殻塚とコバンモチ | | 樹木名板点検・編集後記 |



「大江陶貝殻塚」

弘治元年(1555)の厳島合戦の時、毛利軍に追い詰められた陶軍の将兵達は大江浦の岩穴に身を潜めた。日が暮れるとひそかに海岸に出てツブ貝や牡蠣、アサリなどを持ち帰り、兜を代用とした鍋で煮て食糧にしていた。数日間飢え忍んでいたのであるが全員切られることなく、毛利軍の捕虜になったと伝えられている。

戦後、江戸時代に版行された「芸藩通

志」「厳島図会」などの資料を参考に地元の郷土史家によって岩穴の場所が確認された。その時に刀の鏝やこじりなどが出土したが、現在でも周辺の土から貝殻などの破片が出てくることから島民はこの巨岩を「陶貝殻塚」と呼称している。

高さ約7mの貝殻塚は大江浦から約1.4kmの山中にあるが背丈以上のシダや倒木、崖崩れなどで山道は荒れているので案内人を要する。

(写真・文) 中道 勉

COP10 生物多様性条約締約国会議

見聞録 村上 光春

10月30日の新聞、テレビは、名古屋で開かれたCOP10が成功裏に閉幕したと報じています。その成功の中味の第1は、先進国と開発途上国間の植物や微生物の遺伝資源の利益配分ルールが合意されたこと。まさに、それぞれが国益を賭けた国際会議でした。

私たちに馴染みある、ミヤジマトンボなどの生物絶滅危惧種、オオフサモなどの特定外来生物、タイワンウチワヤンマなどの南方系動植物の北上や、身近な生き物「いきものみつけ」などの観点から、生物の多様性問題を捉えていた私たちにとっては、何か少しはぐらかされた感を否めません。



写真 1

が、これらの活動もあらたに「2020年までの多様性保全目標(愛知ターゲット)」として合意されました。これを機会に、新たな気持ちで生きもの達との課題に係っていきたいと思います。

生物多様性名古屋国際会議は、前段のカルタヘナ議定書第5回締約国会議(COP-MOP5)に引き続いて10月18日から29日まで開かれました。

近年国内で開かれる環境国際会議は2度目です。前回1997年の京都会議で浴びた熱気を再び体感したく、開会日の10月18日にCOP10会場を訪れました。会場は次の3つに分れています。

1. 名古屋国際会議場： 国際会議と国際施策を協議するサイドイベント会場。入場するにはモントリオールにある生物多様性国際事務局本部が発行する顔写真入りのIDカードが必要です。申請を思い立ちましたが、そ

の煩雑さが思いやられ断念しました。当然入場できません。建物の周りで参加者の様子を見ていましたが、さすがは国際会議です。テレビ映像で見ると、開発途上国の人もさっそうと歩いています。そして女性が多いですね。

なお、会場周辺は、テロ対策のため警備員と防護柵で囲まれていました。

2. 白鳥・熱田公園： 国際交流フェア会場・展示場(ブース)です。これは誰でも自由に参加できます。

3. 名古屋学院大学： フォーラムゾーン、先進的取組みや環境団体の活動紹介。1.に比べると気軽に参加できますので、午前中暫くの間聴講しました。といっても国際会議ですので、それなりにハイレベルですが、国際的雰囲気も味わうことができました。

会場見聞の主体は2.の展示場見学です。ブース数は約120。

日本国は政府ブースはじめとして、国交省や外務省など環境省以外の省庁も出展してい



写真 2

ます。どのブースでも沢山用意された、きれいな資料が印象に残りました。外国政府の出展もあります。EUは森林保全を、中国はパンダを中心テーマにして、並んで出展していました。地元の愛知・名古屋は、当然本会議への日本提案の「里山」保全がテーマです。

生物多様性への独自の取組みをアピールする企業・団体に混じって、沢山の小さなNPO/NGO・市民ネットワークなどが出展して

いました。ここは間口が格段に狭く、資料も簡潔でその懐具合が偲ばれましたが、私たちの会と同様に手作りの展示品やポスター、そして何よりもボランティアの説明に染み込んだ熱意と汗をしっかりと感じました。いつものことですが、熱心なボランティアの会には謝々です。



写真 3

愛知万博等で見られたイベント全体のオフィシャルプログラムを期待しましたが、最後まで入手できず、会場への案内図も少なかったようで、ぶっつけ本番の旅となりました。

また、名古屋の地下鉄は路線が増え、少し分かりにくくなってきました。乗換駅で難渋していたアフリカからの一団を道案内しましたが、これも小さな国際貢献のひとつでしょうか。

写真 1 . フェンスに囲まれた国際会議場

写真 2 . 国際フェア会場の入口受付
(遠景は国際会議場)

写真 3 . フォーラムゾーンでの活動発表

八幡湿原自然再生 シンポジウム

に参加して 平田 広三郎

日時：平成 22 年 9 月 22 日(土)

場所：北広島町芸北文化ホール

霧ヶ谷湿原(八幡湿原の一つ)

主催：八幡湿原自然再生協議会

共催：環境省 広島県 北広島町

当日は、当会の岩船天然林調査(大江陶貝殻塚、シロバイ調査)もありましたが、私はこちらに参加しました。

湿原は、ミズバショウやニッコウキスゲに代表される植物群で有名な尾瀬国立公園の尾瀬ヶ原が有名ですが、湿地のうち常に水分の多い状態にあり、自生する草木やコケ類に覆われ、ある程度の広がりを持っている土地を示す言葉です。

今回のシンポジウムの開催は、21 年度に霧ヶ谷湿原の再生工事が終了し、モニタリングや環境学習等の利活用が始まったことを記念して行われたものです。また 当地は、八幡小学校児童が演じてくれたオペレッタ(小演劇)「かきつばたの里(やわた)」が示すように、植物学界の牧野富太郎博士とカキツバタとの関わりで有名なところでもあります。

霧ヶ谷湿原は、昭和 40 年頃からの牧場造成により、コンクリート水路や道路による湿原の乾燥が始まり草地化が進み、さらに昭和 61 年の牧場閉鎖によって放置され、ノイバラや灌木が入り込み、やぶ状の植生にかわってきました。そこで 平成 14 年に、湿原再生に向けての調査やワークショップが始まり、平成 17~18 年度に全体構想や実施計画が策定され、平成 19~21 年度に再生工事が実施されました。

湿原は、面積 17ha で全体的に 2~3 パーセント(推定)の下り勾配をなしており、工事そのものは湿原の水位確保のための堰や水の補給のための素掘り導水路を設ける程度のことですが、下流への土砂の流出にはかなり気を使った設計とのことでした。観察路としての木道(栈橋)も設置され湿原を歩いて観察できるようになっています。

講演は、小松登志子埼玉大学教授(広島県出身)の「土の中の三相(固相：土粒子そのもの、液相：地下水、固相：空気)の移動即ち熱・水の移動やガス等の拡散」に関するものでした。

また土の役割として農学的視点(農地・緑地)や工学的視点(建物等支える地盤)でとらえられていますが、土壌を環境物(植物や昆虫)の素地としての視点もこれからは必要になってくるのではないのでしょうか。一例としてトンボのヤゴがもぐれる土壌の硬さの数値や測定法などです。とにかく初秋を満喫した一日でした。

観音山 自然と歴史トレッキング

日 時 10月31日(日) 9:00 ~ 15:00

参加者 岩崎 小方ペア 北野 小林み
坂本 佐藤(庸) 田中 富田 野呂田
平田 舩田 村上 柳瀬 六重部

観音台公民館の主催で「魅力発見!観音山自然と歴史トレッキング」が10月31日に行われ、今回宮島PVの会が協力することになりました。

まず公民館から「里山であり信仰の山としての極楽寺山を見直し再発見しよう」との挨拶があり、PVの会会長から「自然のカラクリを知ると感動があり自然保護につながる、今日は一つでも二つでも感動を見つけてほしい」と話されました。岩崎会員から登山道の説明があり、一般参加者13人、PVの会15名公民館1名の合計29名が4班に分かれて観音寺から出発しました。

山陽自動車道をくぐり「左観音道」の道標が町石の起点です。江戸時代 極楽寺を中心に周辺13ヶ村がコミュニティを作り、それぞれから極楽寺に登ってくる道がありました。

登山道(不明1丁)にさしかかると急に道幅が狭くなり いくらも歩かないうちに雨が降り出しました。タブノキやアベマキの木肌の感触をたしかめながら登っていると 根元近くから9本に分かれたアカガシがあります。何度も木を切っているんなものに使われたもので里山だった証拠です。そしてモミの木は普通800m以上の山に自生していますが、宮島では5m位から極楽寺山も300m地点で出現し宮島とのつながりも考えられます。

宮島では珍しいシロモジやセトウチウンゼンツツジ、コシアブラが登山道の両側にたくさん見られます。コシアブラが透けるような黄色に変わるのはもう少し先のようです。「鳥獣保護区」の看板があり、ここからは国立公園区域、葉っぱ一枚持ち帰ることも禁止というエリアに入ります。コウヤボウキ、アキノキリンソウそして宮島でもおなじみのミヤマママコナが登山道を彩るなか進むとやっと極楽寺に着きました。

極楽寺は行基上人によって開山された歴史



極楽寺参道

あるお寺です。極楽寺の鐘楼の下の方の右側に13丁の町石があります。今日歩いた観音登山道の終点です。そして左側には平良からの37丁の町石があります。

蛇の池で昼食の後は小方さんの植物クイズです。参加者にドングリの名前カードと葉、ドングリカクトをそれぞれ正解と思うところに並べてもらいました。皆大好きなドングリですが難しいと頭をひねっておられました。次はコウヤマキを見に行きます。コウヤマキは秋篠宮家の御長男のお印として有名です。

帰りは落ち葉で滑らないようひたすら足元を注意して歩きました。無事全員下山し雨の中3時に閉会しました。今日の皆さん、たくさんの感動を見つけれただけではないでしょうか。次回来年の3月にも多くの方々と一緒に平良登山道を歩きたいと思いました。

(野呂田 恵子)

親子で公募観察会 弥山山麓遊歩道

日 時 11月20日(土) 9:00 ~ 15:00

参加者 岩崎 大西 小方ペア 小川 川崎
小林ペア 佐藤佐 佐藤庸 島
末原 中道 野呂田 舩田 丸平
横路 西野保護官 大高下 AR

初めての親子公募観察会を実施しました。4家族、子ども6名を含む総勢32名の一般参加者は、小春日和の一日を紅葉を愛でながら、歴史文化に触れ、遊歩道の自然を観察しました。千畳閣での厳島合戦紙芝居は臨場感があり好評でした。(詳細は次号に掲載)

宮島二流記 (その7)

平田 広三郎

Q7:「厳島神社の大鳥居の不思議は？」

本題のきっかけは、宮島の紹介本に「鳥居の屋根両サイドにある太陽と月のマークは陰陽道の名残だろうか」との記述があったからです。

A6:「不思議とは笠木の日と月のことなんです。」

確かに 大鳥居の笠木は、掲額の海側（表面）が「厳島神社」、山側（背面）が「伊都岐島神社」で、東西端面の意匠は「日」と「月」となっており、前後左右対称ではありません。今回は大胆な推理で、日と月が「陰陽道（おんようどう又はいんようどう）」よるものかどうかの検証と「日と月」のいわれの解明です。

「陰陽道」とは、映画にもなった「平安時代の陰陽師（おんみようじ） 安部清明」が有名ですが、古代中国で生まれた自然哲学思想、陰陽五行説を起源として日本で独自の発展を遂げた自然科学と呪術の体系ですので、中国で約五千年前に成立したといわれる陰陽五行思想とは違います。

本来の陰陽五行思想は、原初唯一絶対の存在が「混沌（こんとん）」で、この混沌に含まれているのが「陰陽」の二気なのです。陰陽二気の交合の結果、地上において「木火土金水」の五気が生まれ、五気的作用・循環が五行となります。五気が兄弟（えと）という陰陽二元に分化し、十干（甲乙丙丁戊己庚辛壬癸）ができます。やがて十干だけでは使いがってが悪かったのか、十二支（子丑寅卯辰巳午未申酉戌亥：庶民に解りやすく動物の名になっています。）が組み合わさり、年・月・日・時刻・方位も表わされることができるようになりました。陰陽五行思想は当時としては最新の科学々説でしたし、十干・十二支とも、植物の栄枯盛衰（発芽・成長・繁茂・種子の誕生・枯死）の様を表わします。

十二支で方位・陰陽（奇数が陽、偶数が陰）を見てみますと、一番の子（ねずみ）は北で陽、四番の卯（うさぎ）は東で陰、七番の午

（うま）は南で陽、十番の酉（とり）は西で陰となります。笠木の東面は太陽（日）：陽が表わされているので、方位で示される陰と矛盾します。従って陰陽説によるものとは考えられないようです。

一方 「日と月」を同時に示す形は、古代中国皇帝の袞冕（こんべん）十二章という礼服（らいふく）までさかのぼります。この礼服の起源は非常に古く堯（ぎょう）・舜（しゅん）の中国神話時代（紀元前 3000 年頃）までさかのぼるとされます。十二章とは十二種類の紋様の意で、国家統治の理念を示し、王権の表章とされています。この紋様の筆頭は左右両肩におかれる「日と月」で、日（左肩）：太陽 陽気 象徴物は三本足の鳥（ヤタガラス） 月（右肩）：大陰 陰気 象徴物は蟾蜍（せんじょ：昆虫のアブ）と兎（ウサギ）です。古い日本の天皇の礼服も北斗星の扱いが少し違いますがこれを踏襲しており、確かに宮内庁所蔵の孝明天皇（明治天皇の前の幕末の天皇）の礼服を見ますと、赤色地の大袖で衣と裳からなり、左肩に金色の丸の中にヤタガラス、右肩に銀色の丸の中にアブとウサギが見えます。ただ 現在は、明治天皇が日本古来の形式・服装ということで、束帯・黄櫨染の御袍（ごほう）が使われています。よく元旦に年始の祭典を終えられた天皇・皇后両陛下が宮中賢所から黄土色の束帯で出て来られる姿がテレビで見られるのがそれです。以上のことから、北におられて厳島神社を見られる天皇の姿（東が左肩、西が右肩）が推測できると言うのが結論です。何故か神社の入り口の石灯籠の上には二本足のカラス一雙が鎮座していますが別のいわれのようです。

今回は Q8:「宮島は遍路の島だったでしょうか？」です。

参考文献

- ・「神の島 宮島を楽しむ」 中国新聞社編
- ・「蛇と白猪」 吉野祐子 講談社学術文庫
- ・「天皇の祭り」 同上

「みせん」43号発行予定

発行日 2011年3月1日
原稿締切 " 1月末日

大江貝殻塚探索と コバンモチの点検

日時 9月25日(土) 8:30 ~ 17:00

参加者 岩崎 大西 小林 勲 佐藤 庸 佐藤 佐
末原 中道 野呂田 横路

今回は 大江貝殻塚探索とコバンモチの木
シカ食害防護網の状態及び樹木の状態調査を
中心に行いました。

調査個所までかなり長い行程のなか、シダ
が生い茂り歩きにくいところもあったが、余
り暑くもなく快適な山歩きであった。

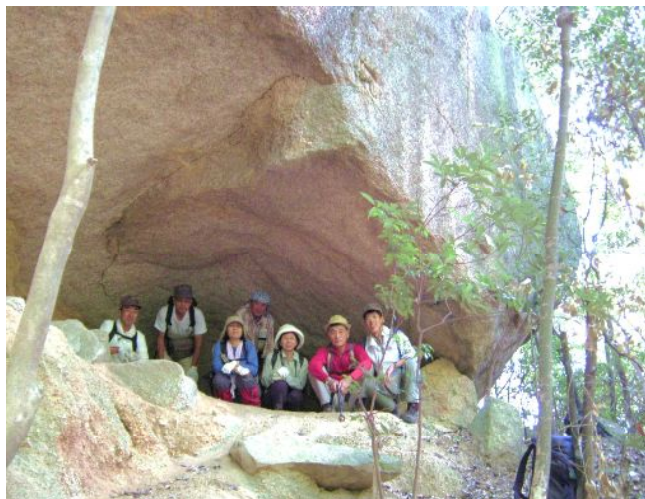
途中、静寂な高平原の「陶晴賢敗死碑」を
訪れた。厳島合戦での陶軍の最後の戦いを思
い浮べ、鎧かぶとの落ち武者の亡霊がまだそ
のあたりに佇んでいるように思われた。

大江貝殻塚は大きな岩(8m×20m×6m位、
下に人が30人ほど入れる空間あり)のそば
で発見でき、陶軍の食べた案、縄文人が食べ
た案・・・夢大しく膨らみました。

コバンモチの木の調査は、シダが生い茂り、
一部は入れない所もあったがほぼ完了。(花
粉がひどいので次回は対応必要。くしゃみ、
鼻水、のど痛い)

山の険しい斜面に85本ものコバンモチの
木に防護網を設置されているのを見て、今ま
での皆様の地道な努力と継続に感動しました。

(今回はシロバイ調査については出来ま
せんでした) (佐藤 佐十四)



大江貝殻塚



深いシダに覆われた防護網

コバンモチ生育状況調査結果

今回の調査は樹木の状況(生きているか、
枯れているか)樹木網の状態を調査した。
久方ぶりの本格的な調査で以下のことが
判明した。

コバンモチ保全調査結果 総括表

調査年月日(平成22年9月25日)

平成14年	
シカ食害防護網を設置した本数	85本
内 不明木	6本
シダが深いための調査不能	12本
調査した本数	67本
内 網や番号札が樹木に喰い こんだり、番号札なし	18本
枯れ木	4本
一部枯れ	3本

調査の感想

1. 新たな樹木への食害は見当たらなかった。(シダが生い茂っていてシカが入れないと思われる。)
2. 全般的に網の状態は良いが、樹木に食い込んでいるのが多数あるので、広げる必要がある。
3. 札番号も樹木に食い込んだものや割れたものが多数あるので取り替える必要がある。

(末原 義秋)

今年は15羽、でも最高！

ハチクマの渡り観察会

日 時 9月18日 9:30~12:30

場 所 佐伯運動公園

参加者 岩崎 大成 大西 近藤 佐伯 富田
中道 平田 村上 吉崎

「こんなに暑くても、タカは渡るの？」と軽口が出るくらい、日本列島開闢以来の暑い夏を終え、彼岸の入りも間近というのにまだまだ暑い日でした。

開会直前に3羽、開会9時過ぎのインターネット情報（一昨日の飛翔数 100羽以上、昨日は十数羽）の交換時に、はや4羽と大いに期待しましたが、その後はぼちぼち、12時前、遠く大茶臼山・向山・窓ヶ山の稜線を群れて飛ぶ4羽が見えました。



大西さん撮影

結局 15羽（去年は132羽）のハチクマが南へ渡って行きました。トピックスは、解説書の通りに、気流を掴まえて旋回しながら上昇するタカの姿を2回も目の前で見られたことです。（村上 光春）



双眼鏡などで空を見上げる

紅葉谷公園の清掃・補修作業

日 時 10月23日（土） 9:00~14:00

参加者 足立 井上 大西 小川 川崎 佐伯
佐藤庸 末原 平野 舩田 丸平 三次 横路

秋の紅葉シーズンを迎え、紅葉谷公園の園路及び側溝等の清掃・補修作業と枯枝、り病枝の切除処理を今年は「宮島さくら・もみじの会」との共同作業になり総勢25名で実施しました。

午前9時、宮島栈橋前に集合し、午前9時30分に紅葉谷の藤の棚で「宮島さくら・もみじの会」と合流、指導者の県緑化センター正本良忠氏から作業説明と剪定や害虫駆除などの講習を受けました。



テング巣病高枝を切除する三次さん

その後、午前中は奥紅葉谷に移動し主にテング巣病の処理と枯枝処理を午後からは藤の棚での枯枝・り病枝の剪定処理、殺菌癒合剤塗布、害虫駆除を共同作業しました。またPVは紅葉谷公園内の清掃や、側溝の土砂を除去するなど補修整備に努めました。切除した枝やゴミは2トトラック2杯、330kgもあり園内が綺麗に明るくなりました。（平野 清）

宮島を海から見つめる

エコ・ツアープログラム（試行）

日 時 11月19日（金）9:00~15:00

場 所 宮島を一周（船）

主 催 瀬戸内海エコツーリズム推進協議会

参加者 佐藤（庸） 中道 平田

環境省 西野自然保護官 大高下 AR

目的は、宮島のエコツアープログラムを開発するにあたり、実際にプログラムを試行して、改善点等を確認することで、リーダーは、広工大上嶋教授。

コースは七浦神社を左廻りに行く形に設定され、ミヤジマトンボの生態の説明や、革籠崎を過ぎ、宮島南面に出了。南面は、花崗岩の奇岩・巨岩が現れ、上部に生育する植生についても言及がありました。青海苔川は、名水の誉れがありますが、河口は砂洲により端っこに追いやられていました。大砂利にて昼食と貝類のモニタリングの実習をし、鷹ノ巣低砲台跡、包ヶ浦と聖崎・蓬莱島を見て宮島栈橋に到着しました。同行した広工大の学生さんも折り目正しく対応し、天気も良く充実したツアーとなりました。（平田 広三郎）

酷暑後の入浜池

9月の入浜定点観測

日 時 9月11日(土) 9:30~14:00

参加者 井上 大西 小方(嗣)小川 川崎
小林ペア 佐伯 島 末原 中道 平野
舛田 松田 柳瀬 横路 六重部

・野鳥観察

観察できた鳥 ヤマガラ ヒヨドリ メジロ セグロセキレイ トビ キジバト(v) イソヒヨドリ ミサゴ ハシボソガラス アオゲラ ハクセキレイ エナガ (大西 順子)

・植物観察

周囲の山を見渡すと山肌を覆っているコシダが赤茶色に変色していたが、尾根沿いが顕著なことから少雨による乾燥が原因かと思われます。前回満開だった入浜東側の岩場のハマナデシコは、すでにたくさんの種子を実らせ既に地上部は枯れていました。池の奥のフェンスで仕切られた施設内では鹿の食害から逃れているツククサやメマツヨイグサなどの植物が見られた。

追記する植物 イソノキ イヌタデ クルマハザクロソウ コケオトギリ コニシキソウ サルトリイバラ センニンソウ ソテツ ツククサ ナンキンハゼ ヌルデ ハシカグサ ヘクソカズラ メマツヨイグサ ヨモギ
(六重部 篤志)

・水質調査

大潮により満潮時に海水の流入・出があり、池の塩分濃度は海水とほぼ同じ結果でした。

	A	B	C	中央	C'	D	E	F	山水	海水
PH	7.8	7.4		7.0	7.2		6.8	7.4	7.2	8.1
塩分	2.3	2.3		2.4	2.4		2.3	2.3	0	2.5
COD	5	5		10	5		13	5	4	2

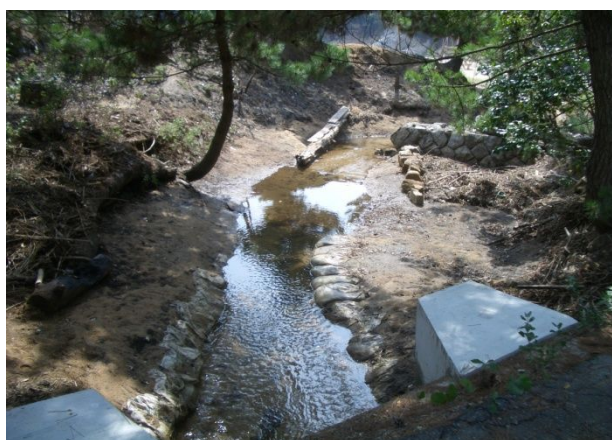
・水生生物

池の塩分濃度は2%台と高く、多くのミズクラゲの進入も見られました。山からの淡水の流入は見えませんでした。トンボ類の成虫は8種と、予想より少ない結果でした。優占していたのはウスバキトンボ(60分あたり換算個体数16.00)、リスアカネ(同13.33)の2種で、アオモンイトトンボ(同6.67)が続きました。これら以外はオニヤンマ、ギンヤンマ、オオシオカラトンボ、マイコアカネ、ノシメトンボが少数確認されるに留まりました。夏のトンボが影を潜める一方、秋に水場へ戻ってくるアカネ属などもまだ限定的です。

ヤゴはアオモンイトトンボ(老齢)が採取されたのみでした。このほかタモ網ではメダカ、チチブ属、スジエビ属、クシクラゲの仲間(ウリクラゲ)等を採取しましたが、海の影響を伺わせる顔ぶれでした。

(松田 賢)

・水路整備 漂流物を除去した後の水路



速報

入浜池汽水化復活整備事業に 助成金 44 万円の配分決定

「広島県の環境づくりプロジェクト」へ申請していた「入浜池の汽水化による環境保全復旧事業」に対して、このほど審査の結果、助成金 44 万円を受けられることになりました。

本プロジェクトには3部門あり、当会は海をつくる本格活動部門に属し他に4団体が配分を受けています。

11月27日包ヶ浦管理センターで授与式があり、会を代表して島さんが出席しました。

今後、助成金を入浜池整備の資材購入、現地への交通費などに充当します。

ミヤジマトンボ生息地保全作業

日 時 9月10日(金)

参加者 大西 五石 小林 勲 佐藤 佐 末原
富田 中道 平田 松田 柳瀬 横路
(環境省) 西野 保護官 大高 下 AR

国指定の絶滅危惧種「ミヤジマトンボ」の生息地の水路が砂で埋まり、湿地が池のようになり、ヤゴの生息が危ぶまれるために水路の復旧作業を、環境省及び広島県職員、ミヤジマトンボ保護協議会、学生、パークボランティアなど33人で行いました。



現地写真

上が作業前、下は作業終了後



作業内容は、ヤゴの生息に適する湿地となるように、前回整備した水路に沿って土のう袋で水路を作りました。(末原 義秋)

樹木名板点検・補修

日 時 10月16日(土) 9:00~14:00

参加者 足立 井上 大西 小方(嗣) 川崎
北野 佐伯 末原 富田 中道 平田
平野 舩田 柳瀬 丸平 横路

宮島の散策路、うぐいす歩道、もみじ歩道、あせび歩道に設置した樹木名板保全調査を二班に分けて実施しました。



名板の取り付け作業

今回は、11月20日の公募観察会の樹木調査と併せて樹木名板354枚を調査し、名板の補充や汚れた名板の拭き作業を実施しました。
(末原 義秋)

公募観察会予定

本年度3回目の公募観察会

実施日 2011年2月27日(日)

会員下見 2月20日(日)

コース 包ヶ浦 入浜

編集後記

名古屋のCOP10に村上さんが参加されましたが、今号の記事の中でもミヤジマトンボ、コバンモチ、てんぐ巣、ハチクマ等々いずれもCOP10の高邁な目標に向かっていていると考えれば、今までも、これからも、個々の活動が輝きを放つように見える。(足立)

瀬戸内海国立公園

宮島地区パークボランティアの会

事務局 環境省 中国四国地方

環境事務所 広島事務所

(〒730-0012)

広島市中区上八丁堀6番30号

広島合同庁舎3号館1階

TEL(082)223-7450・FAX(082)211-0455

宮島詰所

(〒739-0505)廿日市市宮島町1162-18

(宮島栈橋2F)